

## 南部地域活性化基金の実績について

南部地域活性化局

これまでに南部地域活性化基金で取り組んだ事業は、延べ 81 事業です。複数年継続した事業や、類似事業を整理すると 29 事業となります。これらを分野別に分類すると次のようになります。

分野	事業数	主な事業名
集落支援関係	2	関係人口、集落支援モデル解決事業
移住・定住関係	6	空き家調査事業、田舎暮らし体験事業
担い手育成関係	2	第 1 次産業の担い手対策事業、漁業の担い手育成事業
人材育成関係	3	子どもの地域学習推進事業、ミエノワプロジェクト
集客交流関係	8	サニーロードを活用した誘客促進事業、南部を巡るバイク旅促進事業、ふるさと納税南部まるごと発信事業
雇用・産業関係	7	地域インターン推進事業、地域の企業と大学生マッチング支援事業、マーケティングを活用した特産品開発事業
婚活関係	1	出逢い・結婚支援事業
計	29	

基金事業として支援した取組で、支援終了後も市町等で継続されているものや、他に好影響を及ぼすなど成果があった主なものは、次のとおりです。

## 1. 集落支援関係

住民による地域活動等を支援し、

- ① 尾鷲市九鬼町では、廃業した空き店舗を活用して住民の憩いの場となる食堂「網干場（あばば）」を平成 27 年に開業、翌年には全国ネットのテレビ番組で特集されたこともあり、1 日 100 人以上が来客したこともありました。現在は、週末営業のみで年間約 3,000 人が来客しています。
- ② 志摩市渡鹿野島では、島の形に因んだ「ハートのかげらウォークラリー」を平成 27 年に初めて開催し、バレンタイン時期の島の恒例行事となっています。（平成 31 年参加者 40 人）
- ③ 紀宝町浅里では、地元で伝わる「なれ寿し」の商品化に向けた勉強会などの取組を支援し、平成 28 年度には町により加工所を整備しました。平成 31 年 2 月に開催した「第 5 回元気やで!浅里なれ寿しまつり」には約 700 人が来場しました。

など、地域の賑わいづくりに貢献しています。

## 2. 移住・定住関係

- (1) 空き家調査や移住相談会の開催などに早い時期から取り組み、南部地域の移住施策が北中勢よりも充実したことで、順調に移住者が増加しています。
- (2) 取組が充実した例として、尾鷲市の移住総合相談窓口「おわせ暮らしサポートセンター」では、相談の多い週末にも移住相談の対応ができるように、市の直営から、地域おこし協力隊OGらが中心となって設立したNPO法人の運営に平成30年度から変更し、休日も移住相談対応を行っています。

## 3. 担い手育成関係

- (1) みかんの担い手育成支援では、平成24年度から平成30年度までに21人が農業体験に参加し、うち8人が新規就農しました。
- (2) 平成24年度、25年度に取り組んだ漁業の担い手育成支援では、志摩市と尾鷲市の漁師塾に参加した若者8人が就業しました。基金による支援が終了した後も、漁協等において、畔志賀（あしか）漁師塾（志摩市）、早田（はいだ）漁師塾（尾鷲市）が継続して行われ、これまでに23人が漁業に就業しました。

## 4. 人材育成関係

- (1) 尾鷲高校では、プログレッシブコースの2年生がフィールドワークを行い、地域の課題解決策を考え、提案する地域学習「まちいく」を平成27年度から行い、累計で116人の高校生が参加しました。平成30年度限りで基金による支援を終了しましたが、尾鷲市と紀北町は、独自で尾鷲高校と連携して令和元年度以降も実施しています。
- (2) 地域学習の取組は、紀南高校、木本高校、南伊勢高校など南部地域に広がってきました。

## 5. 集客交流関係

- (1) 玉城町、度会町、南伊勢町は、サニーロードを中心とした集客交流の取組を平成25年度から継続して行い、県外でのPRイベントや3町で開催する地場産品等の販売を行うサニー市（来場者3町合計約18,000人）はたいへんな賑わいを見せています。
- (2) バイク旅の取組では、基金事業とは別に、民間団体が道の駅「まんぼう」で地元商工会と連携してバイクイベントを開催（主催者発表：平成30年度バイク1,500台、来場者2,000人以上）したり、食堂等がライダー歓迎の店として幟を設置したりしています。

## 6. 雇用・産業関係

- (1) 地域インターン推進事業は、今年度2年目の取組として展開しています。昨年度に比べ、地域の事業者の意識が高まりインターンの受入を希望する事業所やインターン参加者が増えています。

	事業所	インターン
平成30年度	5	12
令和元年度(9月末)	14	21

- (2) 地域資源を活用した商品開発やブラッシュアップのため、専門家によるアドバイス等を実施した「マーケティングを活用した特産品開発事業」は、1年間基金による支援を行い、翌年度は、国の地方創生交付金制度を利用しました。

## 7. 婚活関係

婚活イベントでは、カップルは成立したものの、プライベートな事柄であることから、成婚に至ったかの捕捉が難しいものとなっています。市町によると詳しい数は把握していないが結婚の報告をしてくれるカップルもあるとのことで、平成28年度に基金による支援が終了した後も、大台町や紀宝町など事業を継続しているところがあります。

## 市町からの意見及び高校生アンケート結果について

### 【市町からの意見】

- 南部地域は北中勢に比べると何かと条件が不利なので、県一律から南部地域に特化した南部地域活性化局や南部地域活性化基金ができた意義は大きい。(13市町)
- 南部地域活性化基金を活用して南部地域全体で移住・定住に取り組んできた結果、ノウハウの共有等が進み、一定の成果が得られた。人口減少の課題は待ったなしの状況であるため、継続して取り組んでいくことが重要。(13市町)
- 基金を活用した取組は、地域の活性化にはつながっているが、働く場の確保や定住促進は道半ばである。(3市町)
- 複数年での取組により効果が発揮される事業についても積極的に採択してほしい。(3市町)
- マリオットホテルの進出を機に、地域の若者の雇用の確保につながるよう、宿泊者をターゲットとした産業施策やインバウンド誘客等に、複合的に取り組んでいくことが重要だと思う。(2市町)
- これまでにない取組や、リーディング事業としてふさわしいものに特化し事業を実施していくことが必要と考える。(2市町)
- 尾鷲高校のまちいく等、若者に戻って来てもらうための取組が非常に重要だと思う。(13市町)
- 市として重点的に取り組んでいきたいのは、買い物支援や交通支援。買い物は地元の店を維持させなければならないし、住民は減っているが船もバスも維持していかなければならない。他所から移住者を呼び込むのに加え、今住んでいる人がここで暮らし続けるための取組も重要である。(13市町)

## 【高校生アンケート】

(調査時期) 平成 30 年 12 月

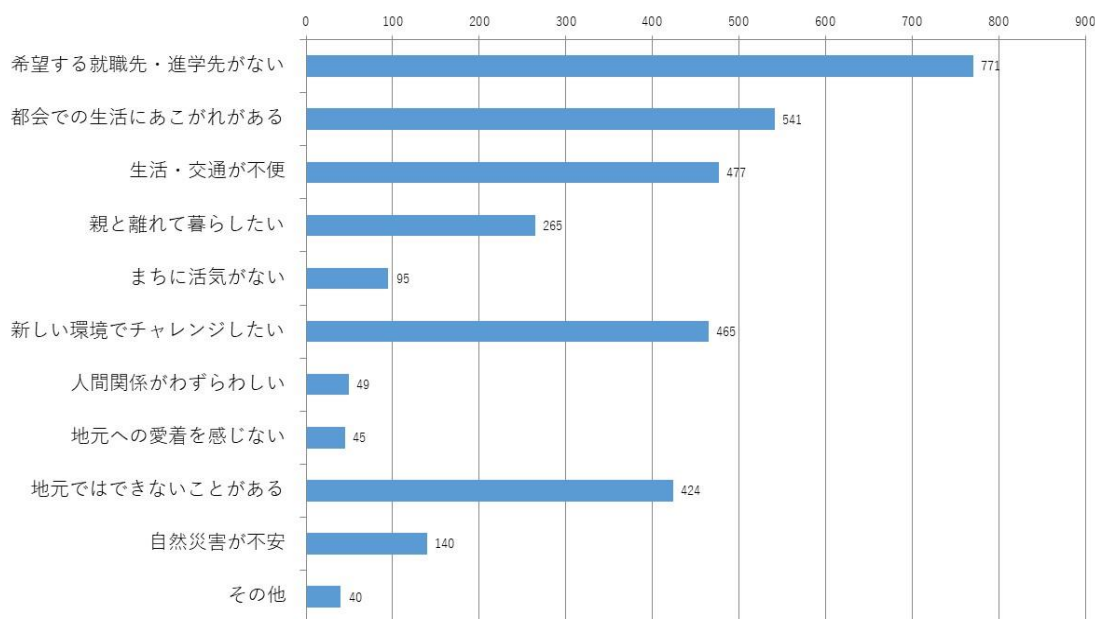
(調査対象校) 南部地域に所在する全ての全日制及び定時制高等学校 16 校並びに  
特別支援学校 3 校

(調査対象者) 2 年生生徒全員 2,704 名

(有効回答数) 2,563 名

### 《今の地域から転出する理由について》

いったんは都会で暮らしたい又は地域に住み続ける（戻る）つもりはないと答えた生徒に対し、その理由を尋ねたところ、「希望する就職先・進学先がない」が最も多く、次いで「都会での生活にあこがれがある」、「生活・交通が不便」となっています。



### (自由記載)

- ・ 都会との行き来が良くなれば、家から会社や学校へ通う人が多くなる。
- ・ 交通がとにかく不便なので、まずはそこから改善してほしい。
- ・ 交通が不便でないようにする。地域の人が集まれるような場所を作る。
- ・ 交通の便をもっと良くすると観光客も増えるし、地元住民が住み続けたいと思える。
- ・ 若者だけ、高齢者だけ、とかではなく全世代が安心してすごせて楽しい街にしたら良いと思う。